

しんろ

福島の新しい未来を切り拓く

福島県知事

内堀 雅雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく6年を迎えようとしております。今もなお8万人を超える県民の皆さんが避難生活を続けているほか、被災者の生活再建や廃炉・汚染水対策、風評・風化といった二つの逆風など、様々な課題が山積しており、福島の復興はいまだ途上にあります。

一方で、環境・医療分野を始めとした新たな拠点施設の整備進展、相馬福島道路や東北中央自動車道といった交通インフラの整備進展、さらには大型観光キャンペーン等の展開による県内観光地のにぎわい回復や文化・スポーツ面での若者の活躍など、明るい光が強まりを見せてまいりました。

この光を更に大きな輝きとし、県民の皆さんがより一層復興を実感できるよう、復興計画に基づく重点プロジェクトを着実に実行に移し、スピード感を持って取り組んでまいります。

特に、避難地域の復興再生は最優先課題と考えております。インフラの復旧・整備はもちろん、ふたば医療センターの整備を始めとする医療提供体制の確保や公共交通ネットワークの構築、学校再開の支援など、広域的な課題にもしっかりと取り組むとともに、国、市町村と一体となって12市町村の将来像の実現やイノベーション・コースト構想の具体化を図り、一人でも多くの方がふるさとに安心して住み、暮らし、働ける環境づくりを進めてまいります。

また、本県の復興を更に前へ進めていくためには、経済や産業の活性化が極めて重要であります。農林水産業、商工業、観光業など既存産業の再生はもとより、再生可能エネルギーや医療関連産業を始め、ロボット、航空宇宙関連産業といった新たな時代をリードする成長産業の育成・集積を図ってまいります。

そして、復興と併せて取り組まなければならない課題が地方創生であります。震災以降、本県の人口は12万人以上も減少しましたが、もともと福島県は「構造的な人口減少」という重い課題を抱えております。こうした人口減少に歯止めを掛けるため、「ふくしま創生総合戦略」に基づき、未来を担う若い世代に対する施策を中心に、雇用の創出や定住・二地域居住の推進など新しい人の流れづくり、切れ目のない結婚・出産・子育て支援、地域における新たな魅力の創出といった様々な施策を総合的に進め、福島ならではの地方創生、人口減少対策に重点的に取り組んでまいります。

このほか、避難者支援、風評・風化対策、県土の環境回復、県民の健康増進、産業の振興、社会生活基盤の整備推進など、様々な課題に一つ一つ挑戦を続け、福島県全体の復興・創生に力を尽くしてまいりたいと考えております。

震災・原子力災害からの復興と地方創生を二つの大きな柱として、福島に心を寄せてくださる国内外の全ての方々と手を携え、新しい未来を拓き、世界に誇れる福島の実現を目指して、全力で取り組んでまいりますので、今後とも一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。